

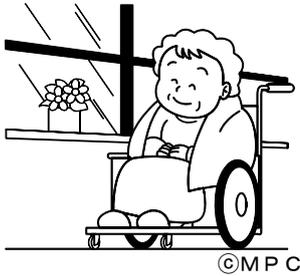
言葉の瓦版

第 7 号

編集：適寿リハビリテーション病院

言語療法室

発行：平成21年 10月 1日



©MPC

今回は、前号より特集している「高次脳機能障害」を引き続きお届けします。「高次脳機能障害」とは、脳卒中（脳梗塞・脳出血）や脳の病気などの影響により、見たり聞いたりする内容がうまく理解できず、素早い判断が難しくなったり、行動に移す指令がうまく出せなくなる障害です。第6号では、高次脳機能障害の症状を、各障害ごとに紹介させていただきました。そこで第7号では、一つ一つの障害に対するリハビリや、接し方などについて、じっくり見ていきます。

高次脳機能障害とは

STが行っているリハビリテーション

☆ 高次脳機能障害には、第6号でご紹介したように様々な種類があります。障害の種類によってリハビリテーションや対応方法も一つ一つ違いがあり、患者様によっても違ってきます。ほんの一例になりますが、まずは、具体的にどのようなリハビリテーションを行っているのかを見ていきましょう。

はんそくくうかんむし 半側空間無視

損傷された脳の反対側の空間に意識が向かない、気づきにくい症状です。

- ・無視側に目印を置いてそこまで目で追う練習をします。
- ・「左側の目印を探す！」など目的を言葉にして言ってみます。

ちしてきしょうがい 地誌的障害

覚えている場所が思い出せない、道順を覚えられないなど地理や場所に関する症状です。

- ・例えば、病室からトイレの間にテープを貼り目印にします。また地図を読んだり書いたりする練習をします。

ちゆういしょうがい 注意障害

注意力や集中力が低下するために、続ける力や物事を見つける力、いくつかのことに注意を向けたりすることがうまくいかなくなります。

- ・集中して続ける力をつけるために、パズル、オセロ、塗り絵など一定時間集中できるものを行います。
- ・物事を見つける力をつけるために、たくさんの絵の中から同じ絵を探すなど、他の対象にまどわされずに目的を探す練習をします。
- ・いくつかの事に注意を向ける力をつける為に、会話をしながらトランプをするなど、同時にいくつかの目標を達成する練習をします。



©MPC

すいこうきのうしょうがい 遂行機能障害

だんどりや手順の組み立てや実施が、効率よく出来なくなります。

- ・行おうとすることがイメージできなかつたり、計画が立てられないため、「具体的」に考えることが大事です。例えば、カレーを作るには、どうすればいいかを考えます。買い物に行く、買う材料を決めるなど、行おうとすることをメモし、整理したり順序立てたりします。
- ・1日や1週間のスケジュールを立てます。

はんそくしんたいいつにん 半側身体失認

身体の半側に麻痺があっても、それを自覚しづらくなります。

- ・意識がしっかりしていなければ、麻痺に気づきにくいので意識をはっきりさせるためのリハビリを行います。例えば、風船を使ってバレーをするなど、体を大きく動かす運動が良いです。
- ・「左手はどこですか？」と質問し、自分や人の身体部分を確認し意識を高めます。

では、どのようにして接すればよいのでしょうか？

☆ まずは、STが行っているリハビリテーションについて紹介しました。ここからは、日常生活の中でご家族や身の回りの方が、どのような声掛けや対応をすればいいのか各障害ごとにみていきます。ここでご紹介する内容も、ほんの一例になりますが参考にしていただければと思います。

はんそくくうかんむし 半側空間無視

- ・脳の病気になってから1ヶ月程度は、見えやすい方向に座り、話しかけましょう。
- ・脳の病気になってから2～3ヶ月程度は、見えにくい方向(無視側)に座り、話しかけることで、見えにくいことを意識してもらいましょう。

ちゆういしょうがい 注意障害

- ・会話相手に注意を向けて話をするなどの環境作りが大切です。そのために、相手の見える範囲にしっかり入る、相手との距離を縮める、時には手や体に触れて注意を向けてもらうなど工夫を行いましょう。
- ・集中できる時間が短いとき、伝えたいことは単純明快に伝えましょう。
- ・話がぐるぐる回ってしまったら、話を元に戻してあげましょう。

すいこうきのうしょうがい 遂行機能障害

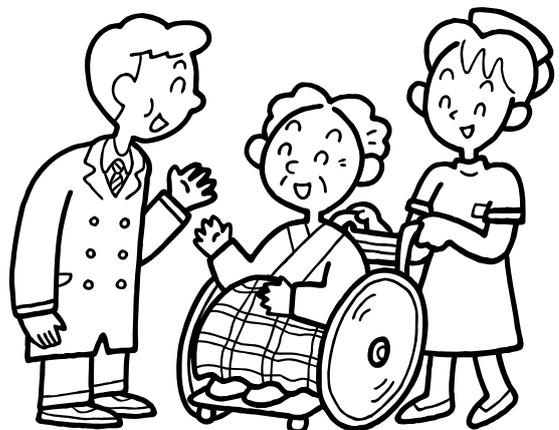
- ・「まず立ちましょう」「〇〇をカバンに入れましょう」など具体的な行動を言葉にして声掛けをしましょう。
- ・「何でできないの?」「しっかりやりましょう」など否定的な発言や、大まかな声掛けは効果的ではありません。

ちしてきしょうがい 地誌的障害

- ・廊下にテープを貼り、部屋からトイレまでの道筋を示しましょう。
- ・家の中にいろいろ目印になるものを置きましょう。
- ・外で迷ってしまったときのために、携帯電話を所持したり、名前や住所を書いたカードを持っておくなどの準備をしましょう。
- ・日頃から地域の方などに障害のことを伝えたくて、外で迷ったときには、お家まで送ってもらうなどの援助を依頼しましょう。

はんそくしんたいしつにん 半側身体失認

- ・麻痺側を使わずに動こうとするため、よく転んでしまいがちです。動く時は常に誰かの見守りや声掛けが必要です。その際も麻痺側の手足がどこにあるのかを言葉で確かめたり、麻痺側の手足も動かすように声掛けをしましょう。



©MPC

次回(8号)は、引き続き『高次脳機能障害STが行っているリハビリテーション・接し方について』を予定しています。失語症、失認症、失行症、記憶障害、行動と情緒の障害など、5つの障害についてまとめていきます。